

「県の基本的施策」に基づく取組について

(資料編)

○ 新潟水俣病患者への保健・福祉対策

■ 訪問保健指導事業

【訪問件数】

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
訪問件数	108	116	125	187	288	293	277	250	235	221	220
年度	R2	R3	R4	R5							
訪問件数	198	183	183	179							

■ 相談窓口体制整備事業

【相談件数】

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
相談件数	273	676	739	1,250	147	304	266	235	193	168	229
年度	R2	R3	R4	R5							
相談件数	155	131	129	166							

■ 介護予防在宅支援事業

【健康教室の開催（事業主体：流域市町）】※令和元年度まで

年度	開催と参加の状況
H23	阿賀野市で計3回開催し、延べ108名参加
H24	五泉市で計12回開催し、延べ127名参加
H25	阿賀町で計5回開催し、延べ85名参加
H26	阿賀野市で計6回開催し、延べ196名参加
H27	五泉市で計13回開催し、延べ155名参加
H28	阿賀町で計8回開催し、延べ172名参加
H29	阿賀野市で計4回開催し、延べ65名参加
H30	五泉市で計13回開催し、延べ162名参加
R1	阿賀町で計2回開催し、延べ26名参加

【健康教室の開催（事業主体：新潟医療福祉大学）】※令和2年度から

年度	開催と参加の状況
R2	五泉市で25名、阿賀野市で26名、阿賀町で24名
R3	五泉市で16名、阿賀野市で13名、阿賀町で9名
R4	五泉市で33名、阿賀野市で9名、阿賀町で9名
R5	五泉市で64名、阿賀野市で30名、阿賀町で9名 (五泉市、阿賀野市は2回、阿賀町は1回開催)

【ケアガイド研修会】

年度	開催と参加の状況
H22	五泉市で 28 名、阿賀野市で 35 名
H23	五泉市で 16 名、阿賀野市で 32 名
H24	阿賀野市で 46 名
H25	新潟市で 93 名、五泉市で 30 名
H26	新潟市で 74 名、阿賀町で 26 名
H27	新潟市で 48 名、阿賀野市で 25 名
H28	新潟市で 27 名、五泉市で 24 名
H29	新潟市で 39 名、阿賀町で 27 名
H30	新潟市で 54 名、阿賀野市で 19 名
R1	新潟市で 41 名、五泉市で 16 名
R2	新潟市で 33 名、阿賀町で 11 名
R3	オンライン開催 参加者 46 名
R4	オンライン開催 参加者 40 名
R5	オンライン開催 参加者 45 名
R6	オンライン開催 参加者 46 名

○ 地域社会の再生・融和の促進

■阿賀野川流域地域フィールドミュージアム（FM事業）

【あがのがわ環境学習ツアーの実施】

年度	開催回数・時期	参加者数	参加者
H23	1 回（8 月）	6 名	首都圏の大学生、教員など
H24	5 回（7～8 月）	160 名	首都圏の大学生、県内親子など
H25	4 回（7～8 月、10 月）	148 名	首都圏の大学生、県内親子など
H26	7 回（4、8、11 月）	295 名	首都圏の大学生、県内親子など
H27	10 回（5～8 月、11 月）	201 名	首都圏の大学生、県内親子など
H28	5 回（7～9 月、11 月）	136 名	首都圏の大学生、県内親子、ソーシャルワーカー協会や地域のサークル団体など
H29	6 回（7、9、11 月）	105 名	首都圏の大学生、県内親子など
H30	8 回（7～9 月、11 月）	167 名	首都圏の大学生、県内親子、ソーシャルワーカー協会や地域のサークル団体など
R1	18 回（6～10、12 月）	405 名	県外の高校生、県内外の大学生、親子連れなど
R2	6 回（10～12 月）	177 名	県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など
R3	6 回（6 月、10～11 月）	163 名	県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など
R4	17 回（6～11 月）	延べ 350 名	県内の小学校の修学旅行生、県内外大学の学生、県内親子など
R5	17 回（4～10 月、12 月）	延べ 405 名	県内の小学校の修学旅行生、県外の高校生、県内の大学生、県内親子など
R6	18 回（4～7 月、9 月、11～12 月）	延べ 304 名	県内の小学生、県内外の大学生、県内親子など

【地域再発見講座】

回数	開催年月日	会場	参加者数
1	平成21年3月14日	阿賀の里	カウントせず
2	平成22年3月28日	阿賀町	約60名
3	平成22年8月22日	阿賀野市	40名
4	平成22年12月25日	阿賀町の旅館・ホテル	10名
5	平成23年1月22日	〃	27名
6	平成24年2月12日	〃	39名
7	平成23年10月29日	阿賀野市	40名
8	平成24年3月3日	〃	48名
9	平成25年2月17日	新潟市北地区公民館ほか	93名
10	平成25年2月24日	横越老人福祉センター横雲荘ほか	70名
11	平成26年2月22日	岡方コミュニティセンター	30名
12	平成26年2月23日	阿賀町公民館（鹿瀬分館）	65名
13	平成26年11月22日	新潟市、阿賀野市	36名
14	平成26年11月23日	阿賀町公民館	37名
15	平成27年6月7日	新潟昭和（株）	42名
16	平成27年11月14日	新津地域学園	56名
17	平成28年10月29日	阿賀町公民館、草倉銅山	37名
18	平成28年10月30日	持倉銅山、鹿瀬ダムほか	40名
19	平成29年11月12日	阿賀野川流域の各スポット	25名
20	平成29年11月23日	新津地域学園	43名
21	平成30年11月4日、11日	阿賀野川流域の各スポット	56名
22	平成30年11月10日	阿賀町公民館、草倉銅山ほか	49名

【阿賀流域再発見・連続ツアー講座】

回数	開催年月日	会場	参加者数
第1回	令和元年7月6日、7日	環境と人間のふれあい館、水の駅ビュー福島潟、阿賀野川流域の各スポット	142名
第2回	令和元年9月7日、8日		130名
第3回	令和元年10月26日、27日		126名
第4回	令和3年11月27日	オンライン配信	視聴113回
	令和3年11月28日		視聴62回
第5回	令和4年11月3日	環境と人間のふれあい館	22名
	令和4年11月12日、13日	オンライン配信 阿賀野川流域の各スポット	視聴50回 23名
第6回	令和5年9月3日	新潟ユニゾンプラザ	28名
	令和5年9月9日、16日	オンライン配信 阿賀町	視聴41回 68名
第7回	令和6年11月17日	NOCプラザ	34名
	令和6年11月23日、24日	オンライン配信 五泉市、阿賀野市	視聴51回 62名

【パネル巡回展】

年度	時 期	会 場
H21	12月～3月	阿賀町の旅館・ホテルの5会場
H22	12月～3月	阿賀町の旅館・ホテル等の10会場
H23	1月～5月	五泉市・阿賀野市のホテル・旅館・公共施設等14会場
H24	2月～6月	新潟市の民間や公共の施設、大学など15会場
H25	2月～6月	新潟市の民間や公共の施設、大学など7会場
H26	11月～4月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等8会場
H27	11月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等10会場
H28	11月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等9会場
H29	11月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場
H30	12月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場
R1	12月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場
R2	3月～	ヴァーチャル展示会としてWEB上にパネル作品を公開
R3	12月～3月	新潟市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等5会場
R4	12月～3月	新潟市、阿賀野市、五泉市、阿賀町の公共施設等11会場
R5	1月～3月	新潟市、阿賀野市、五泉市、阿賀町の公共施設等11会場

【阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム】

回数	開催年月日	会 場	参加者数
1	平成23年3月27日	新潟市中央区	42名
2	平成24年3月25日	咲花温泉「佐取館」等	55名
3	平成25年3月25日	道の駅「阿賀の里」	75名
4	平成26年3月30日	咲花温泉「佐取館」	40名
5	平成27年3月29日	横越地区公民館	71名
6	平成28年3月29日	新潟ユニゾンプラザ	41名
7	平成29年3月26日	新潟市江南区郷土資料館	50名
8	平成30年3月25日	環境と人間のふれあい館	70名
9	平成31年3月17日	新潟市江南区文化会館等	54名
10	令和4年3月16日	オンライン配信後、ダイジェスト動画公開	視聴73回
11	令和5年3月21日	環境と人間のふれあい館	13名
		オンライン配信	視聴82回
12	令和6年3月20日	新潟市秋葉区文化会館	47名

※ 第2回からFM事業に加え、FM事務局が中心となり進めている『公害の経験を乗り越える「阿賀野川エコミュージアム構想」流域再生プロジェクト（新潟県「新しい公共」モデル事業）』と合同して開催し、両プロジェクトの説明及び成果報告を実施。合同開催により、上・中流域の様々な団体等（咲花温泉、窯業や酪農などの地場産業、流域の環境団体など）の協力を得る。

【情報誌「阿賀野川え～とこだより」の発行】

号数	発行月	主な特集
創刊号	平成 22 年 1 月	草倉銅山
第 2 号	平成 22 年 3 月	ロバダン
第 3 号	平成 22 年 11 月	阿賀野川え～とこだ！環境学習
第 4 号	平成 23 年 3 月	パネル巡回展、地域再発見講座
第 5 号	平成 23 年 10 月	これまで開催したロバダンの特集
第 6 号	平成 24 年 3 月	パネル巡回展、阿賀野川中流域の地場産業の今昔
第 7 号	平成 24 年 9 月	ロバダン、「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム」
第 8 号	平成 25 年 1 月	パネル巡回展
第 9 号	平成 25 年 3 月	地域再発見講座開催レポート
第 10 号	平成 25 年 8 月	「阿賀野川環境学習ツアー」
第 11 号	平成 26 年 1 月	パネル巡回展、地域再発見講座
第 12 号	平成 26 年 3 月	地域再発見講座開催レポート
第 13 号	平成 26 年 8 月	「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 4 回）開催レポート」
第 14 号	平成 26 年 11 月	パネル巡回展、新しい公害学習プログラム
第 15 号	平成 27 年 2 月	「地域再発見講座（第 13・14 回）レポート」
第 16 号	平成 27 年 5 月	地域再発見講座（第 15 回）、新潟水俣病公式確認 50 年イベント情報
第 17 号	平成 27 年 10 月	地域再発見講座（第 16 回）、パネル巡回展、新潟水俣病公式確認 50 年イベント情報（10～11 月分紹介）
第 18 号	平成 28 年 2 月	ふるさとの環境づくり企業が取り組む CSR 情報発信フォーラム、地域再発見講座（第 15・16 回）レポート
第 19 号	平成 28 年 7 月	ふるさとの環境づくり企業が取り組む CSR 情報発信フォーラム開催レポート等の特集、新潟 CSR ストーリー
第 20 号	平成 28 年 9 月	地域再発見講座（第 17・18 回）、平成 28 年度パネル巡回展
第 21 号	平成 29 年 3 月	阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 6 回）、地域再発見講座（第 17・18 回）レポート
第 22 号	平成 29 年 7 月	阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 6 回）開催レポート
第 23 号	平成 29 年 10 月	地域再発見講座（第 19・20 回）、平成 29 年度パネル巡回展
第 24 号	平成 30 年 3 月	阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 7 回）、地域再発見講座（第 19・20 回）レポート
第 25 号	平成 30 年 7 月	阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 7 回）開催レポート
第 26 号	平成 31 年 2 月	地域再発見講座（第 21・22 回）、平成 30 年度パネル巡回展を特集
第 27 号	平成 31 年 2 月	阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 8 回）、地域再発見講座（第 21・22 回）開催レポート等の特集
第 28 号	令和元年 7 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催レポート、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 8 回）開催レポート等の特集

号数	発行月	主な特集
第 29 号	令和元年 11 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催レポート、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 9 回）、パネル巡回展等の特集
第 30 号	令和 2 年 3 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座開催レポート、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 9 回）誌上開催等の特集
第 31 号	令和 2 年 11 月	阿賀野川流域地域の光と影を学べる小中学生向けの教材、これまで開催したパネル巡回展等の特集
第 32 号	令和 3 年 3 月	新潟水俣病学習用の YouTube 風映像教材やパネル作品のリモート展示会等の特集
第 33 号	令和 3 年 10 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2021 阿賀野川オンラインツアー、パネル巡回展等の特集
第 34 号	令和 4 年 3 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2021 阿賀野川オンラインツアーの開催レポート等の特集
第 35 号	令和 4 年 10 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2022、令和 4 年度巡回パネル展、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 10 回）等の特集
第 36 号	令和 5 年 3 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2022 の開催レポート等の特集
第 37 号	令和 5 年 8 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2023、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 11 回）等の特集
第 38 号	令和 6 年 3 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2023 の開催レポート、令和 5 年度巡回パネル展、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 12 回）等の特集
第 39 号	令和 6 年 9 月	阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2024、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム（第 12 回）開催レポート等の特集

【ロバダンの開催】

年度	開催回数
H21	17 回（上流域 7 回、中流域 5 回、下流域 5 回）
H22	17 回（中流域 12 回、下流域 5 回）
H23	17 回（上流域 2 回、中流域 8 回、下流域 7 回）
H24	22 回（上流域 5 回、中流域 1 回、下流域 16 回）
H25	27 回（上流域 4 回、中流域 18 回、下流域 5 回）
H26	22 回（下流域 7 回、中流域 4 回、上流域 6 回、流域外 5 回）
H27	22 回（下流域 2 回、中流域 3 回、上流域 17 回）
H28	22 回（下流域 1 回、中流域 5 回、上流域 16 回）
H29	23 回（下流域 4 回、中流域 6 回、上流域 12 回、流域外 1 回）
H30	23 回（下流域 2 回、中流域 15 回、上流域 6 回）
R1	22 回開催（下流域 12 回、中流域 7 回、上流域 3 回）
R2	10 回開催（下流域 1 回、中流域 5 回、上流域 4 回）
R3	20 回開催（下流域 6 回、中流域 4 回、上流域 10 回）
R4	20 回開催（下流域 8 回、中流域 5 回、上流域 7 回）
R5	19 回開催（下流域 6 回、中流域 2 回、上流域 11 回）

○ 教育・啓発の推進

■水俣病発生地域間交流事業

年度	日程	参加校・参加人数
H21	8月4日～6日	新潟市2校、胎内市1校の小学5年生12名
H22	8月4日～6日	新潟市2校、五泉市1校の小学5年生12名
H23	8月9日～11日	新潟市2校、阿賀野市1校の小学5・6年生12名
H24	8月7日～9日	新潟市2校、阿賀野市1校の小学5年生12名
H25	8月6日～8日	新潟市2校、上越市1校の小学5年生12名
H26	8月6日～8日	新潟市2校、新発田市1校の小学5年生12名
H27	8月5日～7日	新潟市2校、五泉市1校の小学5年生12名
H28	8月3日～5日	新潟市2校、阿賀野市1校の小学5年生12名
H29	8月2日～4日	新潟市2校、阿賀野市1校の小学5年生12名
H30	8月1日～3日	新潟市2校、新発田市1校の小学5年生11名
R1	7月31日～8月2日	新潟市2校、阿賀町1校の小学5・6年生12名
R2	中止	
R3	10月8日、12月8日	阿賀町1校の小学5年生27名（リモートによる交流）
R4	11月9日、2月8日	五泉市1校の小学5年生16名（リモートによる交流）
R5	11月27日、2月5日	新潟市1校の小学5年生11名（リモートによる交流）
R6	11月6日、1月29日	阿賀野市1校の小学5年生31名（リモートによる交流）

■新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業

年度	開催日	概要	参加者数
H21	11月22日	水俣病学習に関する講演、パネディスカッション	103名
H22	11月6日	水俣市語り部による講演、子どもたちへ伝えることを考えるパネディスカッション	84名
H23	12月10日	地域再生・融和に関する講演、パネディスカッション	72名
H24	11月17日	大学と市民参画・協働で行う地域再生に関する講演、パネディスカッション	50名
H25	11月22日	熊本水俣病50年事業から新潟水俣病50年を考える講演、パネディスカッション	80名
H26	11月24日	水俣病を子どもたちへ伝えることを考える講演会、子どもたちが学んだことを発表	81名
H27	10月4日	報道写真家からみた水俣病についての講演会、桑原史成氏「水俣事件」写真展	55名
H28	11月27日	水俣病公式確認60年についての講演会、新潟・熊本の語り部と資料館長等によるパネディスカッション	60名
H29	11月26日	胎児性水俣病患者支援施設「ほっとはうす」施設長の講演と水俣を訪問した子どもたちの発表、各団体による啓発取組の状況報告	80名
H30	11月25日	環境省国立水俣病総合研究センターの講師による水俣病治療の現状についての講演	71名
R1	7月13日	水俣病を題材にした作品を手がける新潟市在住の作家と新潟県立大学教授が講演	51名

年度	開催日	概 要	参加者数
R2	中止	—	—
R3	中止	—	—
R4	中止	—	—
R5	11月11日	映画「阿賀に生きる」上映会&トークイベント「阿賀に通って30年、逝くひと来るひと」	35名
	11月11日 ~12月7日	伊藤芳保写真展『阿賀に生きる』30年」	1822名
	11月12日	トーク会「なんで阿賀が好きなの？」&映画「それからどしたっ！『阿賀に生きる』その後」上映会	50名
R6	9月23日	ギャラリートーク「水俣病について今、何を思うのか？」	41名
	9月23日 ~10月26日	豊田有希写真展「SASANQUA~しのぶさんの日々~」	1828名
	10月27日	映画「ところ（常呂）でどしたっ！」上映会&トークイベント	42名

■小・中学校への環境学習等支援事業

年度	参加校数	参加校内訳	(新潟市)
H21	10校	胎内市・糸魚川市・上越市5校・妙高市・五泉市2校	6校
H22	10校	五泉市2校・南魚沼市・上越市5校・妙高市・糸魚川市	8校
H23	12校	上越市5校・妙高市2校・糸魚川市・五泉市・阿賀野市・南魚沼市	3校
H24	11校	上越市5校・糸魚川市・長岡市・柏崎市・南魚沼市・阿賀野市・田上町	6校
H25	10校	上越市4校・糸魚川市・妙高市・長岡市・南魚沼市・五泉市・聖籠町	7校
H26	11校	上越市5校・糸魚川市・妙高市2校・長岡市・南魚沼市・新発田市	6校
H27	8校	上越市3校・糸魚川市・妙高市2校・南魚沼市・五泉市	14校
H28	6校	上越市3校・妙高市2校・南魚沼市	13校
H29	7校	上越市4校・妙高市2校・南魚沼市	10校
H30	4校	上越市3校・妙高市1校	12校
R1	14校	上越市3校・妙高市2校・五泉市6校・阿賀町3校	11校
R2	8校	上越市2校・妙高市1校・五泉市5校	11校
R3	13校	上越市5校・三条市1校・小千谷市1校・妙高市1校・五泉市5校	12校
R4	8校	上越市2校・妙高市1校・五泉市5校	13校
R5	9校	上越市4校・五泉市5校	9校
R6	9校	上越市2校・妙高市2校・五泉市5校	9校

○ 民間団体等の活動の促進

■新潟水俣病関連情報発信事業

年度	補助事業者	事業概要	参加者数
H21	NPO法人 新潟NPO協会	NPO関係者等を対象とした現地ツアー	—
		CSRパネル展と講演会	51名
H22	新潟医療福祉大学	現地学習及び患者との交流	62名
H23	新潟医療福祉大学	学生による総合的な患者支援プログラム	延べ123名
H24	新潟大学	教訓を伝える人材育成プログラム	38名
	新潟県立大学	地域連携連続公開講座	延べ147名
	新潟医療福祉大学	総合的な患者支援プログラム推進事業	延べ286名
H25	新潟大学	教訓を伝える人材育成プログラム	延べ600名
	新潟県立大学	2013年新潟県立大学サマーセミナー「グローバル化と地域発展」	延べ185名
	新潟医療福祉大学	総合的な新潟水俣病患者支援プログラム推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ380名
H26	新潟大学	教訓を伝える人材育成プログラム	延べ229名
	新潟県立大学	新潟水俣病学びのポータル設置事業	延べ114名
	新潟医療福祉大学	総合的な新潟水俣病患者支援プログラム推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ235名
H27	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ150名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の活性化	延べ139名
	新潟医療福祉大学	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ283名
H28	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ168名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣市が発信する 「水俣病の学び」との接続	延べ105名
	新潟医療福祉大学	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ215名
H29	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ180名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣市が発信する 「環境意識」覚醒方法との接続	延べ157名
	新潟医療福祉大学	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ525名
H30	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ180名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣市が発信する 環境文化的な「水俣病の学び」との接続	延べ100名
	新潟医療福祉大学	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ187名
R1	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ310名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣市と新潟が発信する 水俣病をめぐる記憶の継承とその発信方法に関する比較調査	延べ60名
	新潟医療福祉大学	新潟水俣病とともに生きる社会づくり推進事業 -次世代を担う学生（QOLサポーター）の育成-	延べ318名

年度	補助事業者	事業概要	参加者数
R2	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ 345 名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟が発信する水俣病をめぐる地域文化の創造と発信方法に関する比較調査	延べ 139 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 295 名
	新潟青陵大学短期大学部	新潟水俣病の歴史実践	—
R3	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ 261 名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟が発信する水俣病をめぐる伝承方法と環境意識の形成方法に関する調査	延べ 346 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 293 名
R4	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	—
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟における水俣病をめぐる適切な理解の方法と環境の未来に向けた共通認識の形成に関する調査	延べ 326 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 310 名
	上越教育大学	新潟水俣病を学び伝える小中学校社会科学習プログラム開発	—
R5	新潟大学	新潟水俣病の社会課題を学び、発信するフィールドワーク・スキルの養成	—
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：若い世代にとって有効な水俣病の伝承方法に関する調査	延べ 421 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 226 名
	上越教育大学	教員養成課程の学生と現職教員らの協働による子どもたちが伝え・学び合う新潟水俣病小中学校学習プログラム実践	—

○ ふれあい館の活用と情報発信

【講演会、パネル展の開催】

年度	開催状況
H21	講演会等 8 回、パネル展 5 回
H22	講演会等 8 回、パネル展 6 回
H23	講演会等 10 回、パネル展 8 回
H24	講演会等 14 回、パネル展 8 回
H25	講演会等 12 回、パネル展 6 回
H26	講演会等 11 回、パネル展 6 回
H27	講演会等 11 回、パネル展 5 回
H28	講演会等 11 回、パネル展 9 回
H29	講演会等 9 回、パネル展 8 回
H30	講演会等 15 回、パネル展 8 回
R1	講演会等 12 回、パネル展 8 回
R2	講演会等 7 回、パネル展 8 回
R3	講演会等 6 回、パネル展 8 回
R4	講演会等 6 回、パネル展 6 回
R5	講演会等 10 回、パネル展 9 回

※「新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業」についても回数に計上

【主な講演会と参加者数】

年度	主 な 内 容	主な講師等（敬称略）	参加者数
H21	GW 企画：「父 川本輝夫のこと」	川本愛一郎（水俣語り部）	65 名
	阿賀野川哲学塾	大熊孝（新潟大学名誉教授）	107 名
H22	GW 企画：「寝た子を起こして、仲良くごはん」	川崎那恵（大学職員）	70 名
	阿賀野川哲学塾	大熊孝（新潟大学名誉教授）	102 名
	45 年講演会	坂東克彦	95 名
H23	GW 企画：「いまも水俣に生きる」	尾崎たまき（写真家）	46 名
	開館 10 周年企画「阿賀の記憶」上映会	渡辺参治（安田患者の会）	25 名
	開館 10 周年記念講演会	原田正純	137 名
	新潟水俣病講座	塚田眞弘（ふれあい館館長）	367 名
H24	GW 企画：東日本大震災報道写真展と講演	関礼子（立教大学教授）	78 名
	原田正純先生追悼パネル展		1,590 名
	公害の真の克服を求めて	栗屋かよ子（四日市大学教授）	40 名
	四日市公害記録写真展		1,252 名
	新潟水俣病講座	塚田眞弘（ふれあい館館長）	1,323 名
H25	GW 企画：「水俣病の病像の見直し」	鶴田和仁（潤和会記念病院院長）	81 名
	原田正純先生追悼展		9,728 名
	講演「水俣病の経験をどう活かすか～水俣病 50 周年を経て思う～」	一期崎充（水俣市職員）	51 名
	講演「社会人類学からみた新潟水俣病を語る」	ミッシェル・デイグル（ハワイ大学大学院生）	43 名
	新潟水俣病講座	塚田眞弘（ふれあい館館長）	858 名

年度	主 な 内 容	主な講師等	参加者数
H26	GW 企画:「水俣から未来へ～水俣病患者家族へ生まれて 今、私が伝えたいこと～」	杉本肇 (水俣市立水俣病資料館語り部)	120 名
	水俣病写真展		4,746 名
	講演「語り部として伝えたいこと 父の意思を語りつぐ」	小松雅子 (富山県立タイタイ病資料館語り部)	51 名
	新潟水俣病講座		815 名
H27	GW 企画:「新潟水俣病が教えてくれたもの～勇気を持って声をあげること、そして公害裁判へ～」	坂東克彦 (弁護士)、樺島博志 (東北大学教授)	130 名
	写真・映像でつづる新潟水俣病 50 年展		9,280 名
	パネルディスカッション「新潟水俣病が教えてくれたもの～水俣病患者に寄り添って～」	高野秀男 (新潟水俣病共闘会議事務局長)、関川智子 (医師)、旗野秀人 (新潟水俣病安田患者の会事務局長)、小武節子 (語り部)、山崎昭正 (語り部)	65 名
	講演「報道写真家からみた水俣病～水俣事件は半世紀を超えて～」	桑原史成 (フォトジャーナリスト)、旗野秀人 (新潟水俣病安田患者の会事務局長)	55 名
	新潟水俣病講座		903 名
H28	GW 企画:「水俣病と共に、ある医師の姿～家族からみた医師 原田正純～」	原田利恵 (故原田正純医師の長女)	98 名
	新潟水俣病写真展		1,644 名
	講演「新潟水俣病 50 年を超えて～いま、阿賀に生きる若者たちは～」	小林茂 (「阿賀に生きる」撮影カメラマン)、山崎修 (「同」撮影助手)、旗野秀人 (「同」制作仕掛人)、平岩史行 (「同」阿賀野川遡上計画代表)、小林知華子 (「あがの岸辺にて (復刻版)」編集長)	51 名
	講演「水俣病公式確認から 60 年を迎えて」	島田竜守 (水俣市立水俣病資料館館長)	60 名
	新潟水俣病講座		957 名
H29	GW 企画:「この半世紀 水俣病事件で何を見 何を考え どう動いたか～あらたな展開につなげるために～」	坂東克彦 (弁護士)	130 名
	新潟水俣病写真パネル展		5,203 名
	講演「タイタイ病～被害発生から今日まで～」	鏡森定信 (富山県立タイタイ病資料館館長)	50 名
	講演「今、水俣から伝えたいこと～胎児性患者等の挑戦とほっとはうす～」	加藤タケ子 (社会福祉法人さかえの杜・ほっとはうす施設長)	80 名
	新潟水俣病講座		424 名

年度	主 な 内 容	主な講師等	参加者数
H30	GW 企画：「新潟水俣病被害者原告の陳情書は訴える～弁護士からのメッセージ～」	中村周而（弁護士）	50 名
	『みばわるいすけ』を乗り越えて」上映会		22 名
	新潟水俣病写真パネル展		8,751 名
	講演「水俣病を学び、考える～負の遺産としての水俣病を未来に活かす～」	中地重晴（熊本学園大学社会福祉学部福祉環境学科長）	50 名
	新潟水俣病講座		1,225 名
R1	GW 企画：「四日市公害を乗り越えて」	生川貴司（四日市公害と環境未来館館長）	44 名
	新潟水俣病写真パネル展		1,179 名
	講演「律子の舟～文学作品で未来に伝える新潟水俣病～」	新村苑子（作家）	51 名
	講演「ユージン・スミス 水俣に捧げた写真家の 1100 日」	山口由美（ノンフィクション作家）	80 名
	新潟水俣病講座（8 回）		1,271 名
R2	フィールドミュージアム事業パネル展		1,114 名
	新潟水俣病写真パネル展		2,516 名
	阿賀野川流域の光と影の歴史をテーマにしたパネル展		1,803 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	16 名
	新潟水俣病講座（6 回）		503 名
R3	フィールドミュージアム事業パネル展		1,931 名
	20 年の記録パネル展（前編）（後編）		2,515 名
	小原王明パネル展（前編）（後編）		3,511 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	25 名
	新潟水俣病講座（5 回）		462 名
R4	フィールドミュージアム事業パネル展		2,043 名
	W. ユージン・スミスとアイリーン・スミス写真展		1,405 名
	アンコール「第 28 回福島潟フォトコンテスト」入賞作品展		2,922 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	16 名
	講演「ユージン・スミスと私の水俣」	アイリーン・美緒子・スミス	66 名
	新潟水俣病講座（4 回）		409 名

年度	主 な 内 容	主な講師等	参加者数
R5	フィールドミュージアム事業パネル展		1,724 名
	ゴールデンウィーク特別上映会（語り部映像、映画「阿賀に生きる」ほか）		24 名
	新潟水俣病写真展		2,223 名
	講演「故坂東克彦弁護士と新潟水俣病」	関 礼子立教大学教授	36 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	10 名
	小原王明写真展		1,544 名
	小原王明写真展トークイベント	小原王明、遠藤麻理	61 名
	新潟水俣病講座（5回）		551 名
R6	フィールドミュージアム事業パネル展		2,256 名
	ゴールデンウィーク特別上映会「四大公害病を学ぶ」		57 名
	新潟水俣病写真展		1,772 名
	講演「新潟のメチル水銀中毒について」	斎藤 恒	58 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	24 名
	山口冬人写真展		1,172 名
	山口冬人ギャラリートーク	山口冬人	35 名
	新潟水俣病講座（5回）		401 名

【語り部の口演会】

ふれあい館または小・中学校等に出張して実施

年度	実施回数	聴講者数
H21	64 回	3,237 名
H22	86 回	3,773 名
H23	87 回	4,191 名
H24	98 回	4,968 名
H25	100 回	4,459 名
H26	106 回	5,024 名
H27	112 回	6,355 名
H28	115 回	5,089 名
H29	98 回	4,423 名
H30	107 回	4,439 名
R1	95 回	5,942 名
R2	74 回	3,002 名
R3	95 回	3,961 名
R4	114 回	5,291 名
R5	85 回	3,830 名

【展示・施設整備】

- 水俣病常設展示パネルの追加・更新（随時）
- 図書室内水俣病関係史料書架、史料展示用ショーケースを増設（H23年度）
- 新潟水俣病展示コーナー映像英語対応化
外国からの来館者に対する説明機能の充実を図るため、新潟水俣病展示コーナーディスプレイ上映DVDに英語テロップを追加（H24, 25年度）
- 小・中学生向けパネルの制作（H24年度）
小・中学生向けQ&A形式パネル「新潟水俣病 20のぎもん」を設置
- 新潟水俣病コーナー展示映像の更新（H25年度）
「新潟水俣病」映像DVD制作と併せて、展示映像を更新
- 新潟水俣病小・中学生等向けパネルの制作（H26年度）
 - ・ 小・中学生向けパネル「新潟水俣病 20の疑問」を改訂し、設置
 - ・ 「はじめての新潟水俣病」パネルを設置
- 常設展示コーナーの改修（H27年度）
 - ・ 水辺のいきものと阿賀野川のくらし展示コーナーに、阿賀野川スコープの新設、阿賀野川シアター映像の変更、食物連鎖説明ディスプレイの新設
 - ・ 新潟水俣病コーナーの歴史年表グラフィックの変更
 - ・ 水とわたしたち生活コーナーに「人間の活動と環境のかかわり」展示の新設
- 全国公害資料館パネル・パンフレットコーナーの設置（H28年度）
 - ・ イタイイタイ病資料館など5施設を紹介するパネルの掲示、パンフレットの無料配布
- 新潟水俣病資料館語り部紹介パネルの作成・掲示（H28年度）
 - ・ 新たに館所属の語り部5名を紹介するパネルの作成と研修室での掲示
- 研修室プロジェクター更新（H29年度）
- 既存洋式トイレの温水洗浄便座全面導入（H30年度）
- 水俣病情報検索パソコン更新（R1年度）
- 水俣病コーナー年表更新（第3次訴訟ほか）（R2年度）
- テラス床面防水・手摺補修、ピロティ軒先上裏部分修繕工事（R2年度）
- 水コーナーのシステム一部改修（画面のタッチパネル化）（R3年度）
- 和式トイレを洋式トイレへ改修（R3年度）
- 全館でWi-Fi接続が可能なネットワーク環境を整備（R4年度）
- ロールカーテン（手動・自動）全面入れ替え（R5年度）
- 屋上防水工事（R5年度）
- 空調用補給水ポンプ入れ替え（R5年度）

■アーカイブス事業（令和元年度終了）

【制作DVDリスト】

年度	タイトル	内容
H21	新潟水俣病と阿賀野川が教えてくれたもの	小学校3-4年生向けアニメ
H22	新潟水俣病関係史料でたどる新潟水俣病の記録	坂東克彦氏による解説等
H23	阿賀の絆を取り戻す 阿賀野川流域地域再生・融和の記録	再生・融和に向けた先駆的な取組の記録等
H24	新潟水俣病語り部 映像の記録	新たな語り部4名の口演
H25	新潟水俣病（本編制作と併せて、英語テロップ版、ダイジェスト版を制作）	開館当初以降の出来事を追加
H26	新潟水俣病現地ガイド「光と影 阿賀野川流域の旅～新潟水俣病をとおして～」	新潟水俣病関連施設、地点の記録

年度	タイトル	内容
H27	「新潟水俣病公式確認 50 年DVD」	公式確認 50 年の節目に、記念事業の取組及び関係者の発言等を記録を残す。
H28	「新潟水俣病語り部の記録 第2集」	当館の新たな語り部の口演を記録として残すとともに、水俣病学習に活用する。
H29	「未来を見つめる旅～新潟水俣病から学ぶ人と環境のあした～」	小中学校の水俣病学習の様子を記録として残すとともに、先進実践事例を紹介する。
H30	『水俣病』時代の証人が語る	事件当時を知る関係者の高齢化が進んでいることから、坂東弁護士から水俣病の現実を語っていただいた。
R1	「新潟水俣病からの学び」未来へつなぐ新潟の自然～悲劇を繰り返さないために～	新潟水俣病のあらましをコンパクトのまとめ、学校における水俣病学習に活用する。

(制作DVD映像画面)



(H21)



(H22)



(H23)



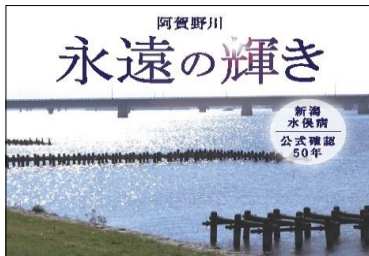
(H24)



(H25)



(H26)



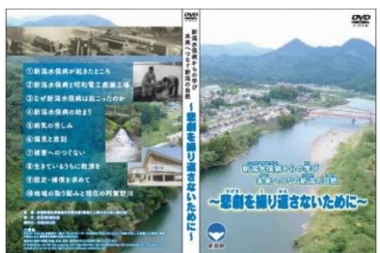
(H27)



(H28)



(H29)



(H30)



(R1)